

農作業中の熱中症による 死亡事故の事例

事例1

4月某日夜、ビニールハウス内で農作業をしていた80代男性が倒れている状態で発見され、その後死亡が確認されました。

当日の最高気温は26.6℃でしたが、ハウス内は高温になっていた可能性があり、現場の状況等から熱中症によるものと推測されます。

事例2

7月某日午後、畑でうん耕作業をしていた70代男性が倒れているところを家族が発見し、その後死亡が確認されました。

当日は晴天で、最高気温35℃を記録する猛暑日であり、午前の段階から30℃を超えていましたが男性は朝から作業を続けていました。

事例3

7月某日、畑で作業をしていた70代男性が作業服や器具等を身に着けたまま倒れているところを知人が発見し、その後死亡が確認されました。

暑い中、一人で農作業を行ったことによる熱中症が原因でした。



夏の農作業で心掛けること

1. 日中の気温の高い時間帯をはずして作業を行いましょう
2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう
3. 帽子や吸汗速乾性素材の衣服など、
熱中症予防グッズを活用しましょう
4. 単独行動は避けましょう
5. 高温多湿の環境を避けましょう



熱中症が疑われる場合の処置

暑い環境で体調不良の症状がみられたら
すぐに作業を中断しましょう

熱中症チェック

- 手足がしびれる、冷たい
- めまい、吐き気がする
- ズキンズキンとする頭痛がある
- 汗をかかない、体が熱い
- 意識の障害がある
- 体がだるい
- まっすぐに歩けない



熱中症の可能性がある場合は、涼しい環境へ避難し、衣服をゆるめて風通しを良くしましょう。また、水分・塩分を補給し、水をかけたりあおいだりして身体を冷やしましょう。